



かしわの

No 496 (3月号)
令和 4年 2月 28日
調布市立柏野小学校
校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

つ な ぐ

校長 浅野 正臣

北京で開催されていた冬季オリンピックが終わりました。競技内容はもちろんですが、協議後の選手のコメントはとても印象深いものでした。その中の開会式前に行われた女子アイスホッケー「スマイルジャパン」の初戦後のコメントを紹介したいと思います。「これで冬季オリンピックの選手みんなに勢いをつなげることになりますね」という質問に「私たちは夏のオリンピックで活躍した選手たちから元気や勇気をもらったので、自分たちがこれからの選手の力になれるのであればうれしい。」と答えていました。

夏季オリンピック大会は、地元東京が開催地であったこともあり、選手たちの思いは強かったのでしょう。その思いをどれくらい意識したのかは分かりませんが、このように選手の思いは引き継がれていくのだと強く感じさせられました。

今年度の登校日は、残すところ18日となり、6年生は、これで小学校とはお別れです。コロナ禍の中で、高学年の2年間を過ごしました。5年生では八ヶ岳移動教室が実施できず、6年生での日光移動教室が初めての経験でした。卒業式や入学式への参加もなく、卒業生や新入生の様子も分からない中で、最高学年のスタートでした。

私は、「つなぐ」という具体的なものが少ない中、どのような6年生になるのか少し不安な気持ちをもって見守ってきました。でも6年生は、4月から1年生の教室に出向き、

朝の準備を手伝う、休み時間の終わりには、校庭にいる下級生に声をかける、委員会活動の当番活動を中心となっていくなどの活動を進めてきました。これらの経験を活かし、日光の移動教室でも一人一人が、責任をもって堂々と行動していました。

6年生はこうするものだというマニュアルはありません。しかし、このような行動を通して、最上級生としての責任と誇りが、徐々に周りの人たちにも伝わってきました。この成長は、学校にとってとてもうれしいことであり、いろいろな制限がある中でも、柏野小の伝統を受け継ぎ、さらに発展させてくれました。今の5年生も、このような姿を日々見ていく中で、最高学年に向けての準備を進めていることは想像に難くありません。オリンピック選手のコメントを聞きながら、柏野小でも「つなぐ」気持ちが確実に感じられる1年間になったなあと、私は幸せな気持ちになりました。

さて、保護者や地域の皆さまには、今年度も、感染状況を鑑みての教育活動の変更をお願いいたしました。また、学校評価へのご協力もありがとうございました。別紙にてご報告させていただいたことを、来年度の教育活動に活かしてまいります。

保護者・地域の皆様のいつも変わらぬご理解・ご協力に感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。